



1000本超の電柱が放置

住民から「腐って危険」指摘も

使われなくなった1000本を超える有線放送の電柱が、16年以上も管理されず、大津市内に設置されたままになっていることが分かった。一部は電柱の間に電線（ケーブル）がつかなくなったままになっている。電線は全長約97キロにも及ぶ。地元住民から「腐って危険な木柱がある」と指摘された例がある。しかし、滋賀県、大津市などの各関係行政機関は撤去しようとせず、それぞれが責任を押し付け合っている。問題になっているのは、旧「湖南有線放送農業協同組合」が設置した電柱と電線で、市内の瀬田や田上などの地域で広範囲にわたっている。



旧「湖南有線放送農業協同組合」は、田上有線放送農業協同組合と瀬田町有線放送農業協同組合が合併して、1972年（昭和47年）に設立された。滋賀県からは設立認可、また旧郵政省から業務許可を受けて運営していた。当時の利用者の話によると、有線放送は、組合員同士の電話や、地域内のお知らせなどに利用していたという。

団体は2001年4月に、加入者の減少などに伴い、有線放送の業務を休止した。2003年4月に臨時総会で、解散の動議をかけ、清算人を選出したが、解散登記や清算人に関する登記をしていなかった。

滋賀県

県としては、民（組合）と民（土地所有者）の問題として認識していた。県道にある電柱については、支障があれば撤去するということになっていた。農政課としては、活動している団体の指導にあたっているもので、解散した団体の指導はできない。

責任の押し付け合い



大津市

有線放送電柱の（占有地）調査は、2009年、2010年に実施した。市民の方からの問い合わせもあったので、県に報告するため調査した。なぜ、それまで調査しなかったのかは、わからない。市道にある有線放送の電柱について、市民の方から危険箇所の通報があったら、路政課が対応している。